

La Informilo de Nagoja Esperanto- Centro

センター通信 第285号

2017年9月19日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



第102回世界エスペラント大会（韓国外国語大学にて）

目次

Mia agado en la UK (YAMAGUTI Sin'iti)	2
世界エスペラント大会に参加して（水谷章子）	4
ソウル大会参加報告（山田義）	4
活動報告	6
えほんのもりで世界の民族楽器演奏体験会（伊藤俊彦）	9
今後の地域の行事予定	10
日誌・会員近況	11
竹崎睦子基金（山田義）・編集後記	12

第102回世界エスペラント大会（ソウル）

ソウルでの世界大会へ東海地方常住者からは、水谷章子、藤本日出子、山口眞一、堀田裕彦、鈴木善彦、永瀬義勝、山本由紀子、前田可一、猪飼吉計、安藤邦子、小川一夫、山田義、斎木彰、斎木昌代（以上敬称略）などが参加されました。そのうち三人の方から原稿をいただきました。

Mia agado en la UK

YAMAGUTI Sin'iti

Koreion mi por la unua fojo vizitis en 1982, do antaŭ 35 jaroj, kiam okazis la unua Komuna Seminario (KS). Tio estis por mi la unua fremdlanda vojaĝo, tial la lando Koreio donis al mi fortan impreson neniel forgeseblan. Interalie la nokta firmamento kun klare videbla Lakta Vojo super la monto Sorak, la malnova elementa lernejo kiel la seminariejo, varmego, simpla manĝado ĉe la riverbordo, koreaj lernemaj komencantoj, impetaj vendistinoj en butikoj, danĝera rapideco de veturiloj en la urbocentro k.t.p. Post la KS partoprenantoj ekskursis al iu naĝejo. Tie subita alarmo pri alproksimiĝo de nordkoreia submara ŝipo surprizis japanojn, sed por koreoj tio estas ĉiutaga okazaĵo. Matene kiam mi kaj alia japano promenadis apud la maro, koreaj policistoj demandis ion al ni. Ĉar ni ne komprenis la demandon, ili kuntrenis nin en policejon; post kelka tempo tamen ni estis liberigitaj. Ĉio ĉi signifis, ke ĉi tie la milito ankoraŭ ne finiĝis.

Dume mi vizitis la landon ankaŭ en 1984 por la 3-a KS kaj en 2011 por la komuna Esperanto-Kongreso de Japanio kaj Koreio, sed mi bedaŭrinde ne bone memoras tiamajn detalojn. Estas certe tamen, ke Koreio rapide ŝanĝis sian vizaĝon; ne nur stratojn sed homajn sintenojn.

Antaŭskribo jam longis. Mi estis en la UK nur kvar tagojn, de la 22-a ĝis la 25-a de julio. Tial mi ne povas priskribi la tutan figuron de la UK, pri kiu certe aliaj raportos. Mi limigas la temon nur al mia agado kiel budhana esperantisto.

Budhana Ligo Esperantista (BLE) refondiĝis en 2002, kiam la UK okazis en Brazilo. Ekde tiam mi estas ĝia sekretario kaj redaktoro. Kutime BLE partoprenadis en la Movada Foiro, kie diversaj organizoj sin prezentas ĉe simpla budo (tablo). Tiu ĉi estas tre bona ŝanco por konatiĝi kun diverslandaj kaj diversfakaj esperantistoj. En tiu ĉi jaro ĝi okazis en la 22-a

vespere dum 2 horoj, eksterdome sur gazono. BLE disdonis senpage al interesatoj la broŝuron titolitan “Invito al Budhana Esperanto-Movado”, kiun mi verkis, kaj braceletan rozarion, kompaktan diskon sonregistrantan budhismajn fabelojn, libron pri budhisma katekismo, kiujn ĉiujn ĉina monaĥo Mioahui preparis. Precipe la braceleto estis bonvenigita de multaj.

En la sekva 23-a matene okazis la ĝenerala kunsido de BLE. Ĉi tie ni devis elekti la novan estraron (Oficperiodo de BLE-estraro estas 3 jaroj.) Ĝis nun dum 15 jaroj sveda samideano estis la prezidanto de BLE, sed li esprimis sian deziron retiriĝi de la posteno pro sia maljuniĝo. Por elekti la novan estraron estis iom malfacila problemo, kiu tamen estis solvita iel tiel. Rezulte oni elektis So Gilsu el Koreio kiel la prezidanton, min kiel la sekretario kaj aliajn 7 estraranojn el Japanio, Usono, Ĉinio, Ĉilio kaj Kanado. So Gilsu estas energia, elokventa kaj erudicia esperantisto. Li esprimis sian deziron entrepreni du projektojn: unue pli ampleksigi budhismajn terminojn kaj ordigi la terminaron, kaj due multigi esperantigitajn sutrojn kaj disertaciojn. Post la ĝenerala kunsido So Gilsu prelegis sub la temo “Kio estas la budhismo kaj budhisma meditado?” Li tre sisteme klarigis budhismajn pensmanierojn. Feliĉe BLE povis venigi du novajn membrojn, sed ĝia membraro kaj forto estas ankoraŭ malgrandaj. Mi devas plu klopodi por disvastigi budhismon inter esperantistoj.

Dum la UK mi renkontis kaj salutis karmemorajn koreajn samideanojn, kiuj estis partoprenantoj de la unua KS: So Gilsu, So Jinsu, Bak Giwan kaj Ho Song. (Precipe Bak Giwan mi ne vidis dum 35 jaroj, kvankam aliaj foje vizitis Japanion.) Ili ĉiuj nun estas motoroj de Korea Esperanto-Movado. Homoj maturiĝis - sed kun same juna koro - post 35 jaroj.



世界エスペラント大会に参加して

水谷章子

今回の参加は、東京の友達2人とその gvidanto (教師兼引率者)と一緒にきました。友達1人と私がはじめての韓国であり、はじめてのエスペラント大会でした。

とはいっても、実際に参加したのは1日目と3日目だけで日本に戻ってきました。3日目に韓国の扇子作りに挑戦して外国の人と一緒にテーブルになりましたがなかなか話せませんでした。たった2日間だけでしたが、それ以上居たら苦痛になっていたかもしれません。

なぜかという、エスペラントの学習が足りない事と、片言でもいいから話をするという勇気が自分にはなかったからです。また、前もって名刺は作っておきましたが誰にも渡すことなく戻ってきて、今考えると残念です。

でも、世界各国から来られている人々が、楽しく話をし、笑い、歌い、手をたたき、握手をしているという場面を、テレビなどを通して見ているのではなく、実際に自分がその場にいるという喜びを、私は感じていました。そして、今度参加する時は、その一人になりたいと思って、帰ってきました。

ソウル大会参加報告

山田義

韓国の宗教事情を解説するプログラムがありました。質問の時間に手を上げて話題を投げかけてみました。去年、北朝鮮のピョンヤンにあるキリスト教会の日曜礼拝に行って来たことと、その様子を話しました。

質問の時間なので韓国のキリスト者は北への伝道活動をどのようにしているのですか、と結びました。

印象に残ったのは、その講演者のそつのない回答より、会場内にいた韓国人が、私を叱りつけるような話っぷりで、「北の教会なんてあれは本物ではない、外国人に見せるための教会だ」と大声で主張したことです。北をもっとも恐れ蔑んでいるのが韓国であるようでした。

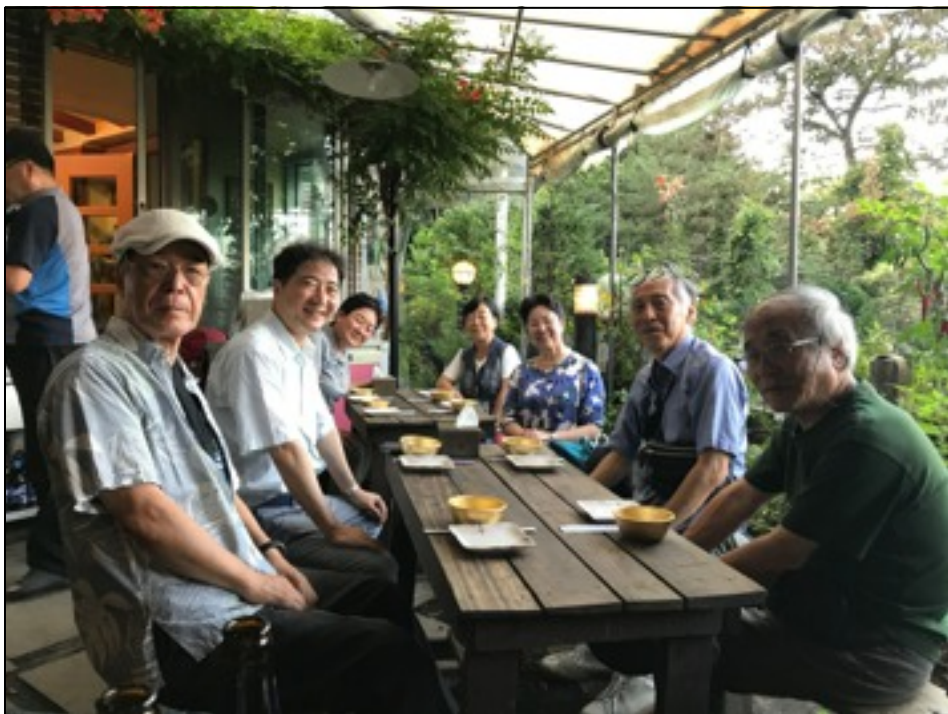
土曜日の Movada Foiro は屋外でテーブルを並べて、それぞれがパンフレットを置き、目立つ服装を凝らして呼び込んでいました。

名古屋エスペラントセンター委員でもある堀田裕彦さんは、ボーイスカウトの服装と敬礼の挨拶で、Skolto のエスペラント運動を紹介していました。

草原の上で久しぶりの再会があり、初めての出会いがあり、胸に吊るした大会カードで国や名前を確認している姿も、日が暮れて陽が落ちるに従って写真も撮れなくなりました。私はその背後に高く立つ、韓国外国語大学の立派な建物の尖塔が切れないようにと、レンズの位置を工夫しました。

明日は閉会式という金曜日の夜の賑やかな祭典がありました。私は階段席で大きなタブレットで、前日あったエスペラントによる歌のグループを撮影した写真をFacebookに載せる作業をしていると、後ろ上の席から肩を突く人がありました。振り返るとその出演者Kajtoの4人の内のひとりでした。写真を撮ってくれてありがとう、と言うのです。

Kajto はギターの男性、司会をしながらのソプラノ、アコーディオンで汽笛を鳴らすアルト、ともうひとりの女性の4人のグループ。CDもたくさん出している人気のバンドのことです。



活動報告

第66回東海エスペラント大会

時：2017年5月27日(土)～28日(日)

所：「愛知県青年の家」(愛知県岡崎市)、第3研修室および館内宿泊施設

参加者：31人(不在参加2人を含む)

大会は、今年も東海地方有志の持ち回りでの開催。今年の担当は、黒柳吉隆、山田義、後藤好美、猪飼吉計、堀田裕彦。東京、神奈川、京都、大阪からも参加。

27日(土)：13時半、黒柳吉隆の挨拶で開会。参加者全員が順に演壇に立ち、自己紹介と同時に、大会テーマ「あなたが主役で『エスペラント体験』交流」の意見を発表。アレクサンドラ綿貫が、「Esperanto en Socia Reta Servo」と「Esperanto-Vegana Kafejo」の題目で、広報のための手段や材料について講演。学習会チャンブロ・チャルマが寸劇「Araba saĝulo」を披露。夕食と懇親会のあとも、就寝時間まで会話が続いた。

28日(日)：青年の家の朝の集いで、同宿の高校生徒会グループに、アレクサンドラ綿貫が通訳付きでエスペラントで挨拶。

午前は、大会テーマの体験交流を深掘りする意見を皆で交換。山田義が「Semajno en Pjongjango」と題して北朝鮮旅行について講演。

午後は、東海地方の運動についての討論。後継者を得られず発展的解消となった名古屋エスペラント会の85年の足跡を振り返った。また、東海エスペラント大会については、1948年以來の年表が紹介され、2018年の継続のため、大会後協議を継続することで参加者が合意。猪飼吉計が「エスペラント聖書訳の歩み」の

スライドを上映。最後に、東海地方のエスペラント運動の活性化の議論が盛り上がり、半時間の延長後、成功裏のうち大会は終了した。

(文責：堀田裕彦)



エスペラント運動セミナー

7月8日（土）の16時から18時、センター事務所において「エスペラント運動セミナー」が開催されました。テーマは「第一書（Unua Libro）」。

“Unua Libro”とは通称であり、正式なタイトルを日本語にすれば『国際語：前書きと完全な学習書』となります。1887年にザメンホフが初めて世に出したエスペラントの学習書のことです。これは最初にロシア語版が、次いでポーランド語版、ドイツ語版、フランス語版、英語版、また1889年にはヘブライ語版が出版されました。全体で40ページ、その中には聖書や手紙の例文等のエスペラントのテキストも含まれています。

1973年には京都のルドビキート社から “iam kompletigota plena verkaro de l.l.zamenhof”（ザメンホフ全集）の第1巻として “unuaj libroj por esperantistoj”が発行され、その中にこの第一書のエスペラント訳が収められています。このエスペラント訳はザメンホフ自身によるものです。また、1987年、すなわちエスペラント100周年の年に、名古屋エスペラントセンターが改訂版を発行しました。

セミナーには7人の参加があり、永瀬義勝氏が講師として、第一書、ザメンホフ全集、エスペラント訳聖書、出版活動などについて話をしました。参加者からもいろいろな質問や意見が自由に交わされ、将来的には『ザメンホフの語法と表現の辞典』や『ザメンホフ全集』を電子書籍として出版する、という提案もありました。



（文責：山口眞一）

愛知工科大学にてエスペラントの発音指導

日本エスペラント協会の第2回エスペラント紹介動画コンクールについて、愛知工科大学の演習授業（准教授 杉森順子さん）から、問い合わせあり。エスペラントを題材にして、応募することことになっていて、発音指導を同協会に依頼してきた。

地域の団体として、センターとして、要員を派遣（6/24堀田、7/02山口）。

6/24堀田が訪問したときは、5つの班の中、4つの班は、ほとんどできておらず、発音指導だけでなくプレゼン指導までしてきた。

（文責：堀田裕彦）

第29回愛知サマーセミナー

名古屋エスペラントセンターは、第29回愛知サマーセミナーの枠でエスペラント講座を開催しました。セミナーは三日ありますが、センターが参加したのは、最初と最後の7月15日と17日です。

愛知サマーセミナーとは、愛知県内の私学関係者を中心に、教員、保護者、生徒、市民がボランティアで毎年開催している、国内屈指の自由学校のことで、今年は3日間2000以上の講座に、高校生を中心に小学生以上の市民6万人以上が受講しています。

エスペラント入門講座は、サマーセミナーの初期にも、川合隆史さんら有志が開催していましたが、今回は山口委員長の友人である佐藤順さんがこのセミナーのスタッフをつとめており、彼女からのお誘いにより参加を決めました。

概要

講座:国際語エスペラント入門講座

講師:永瀬義勝(申し込み上の名義は山口眞一)

2017-07-15(土) 4限目 (14:50/16:10) 講座番号 D103

受講生 1名(女性:豊橋中央高校英語教諭)

センター関係者4名(永瀬義勝、堀田裕彦、猪飼吉計、小川博仁)

2017-07-17(月祝) 2限目 (11:10/12:30) 講座番号 J128

受講生2名(女子:愛知淑徳高校2年生、女性:佐藤順さん)

センター関係者5名(永瀬義勝、山口眞一、後藤好美、小川博仁、前田可一)

講習の中身

エスペラントの歴史や世界エスペラント大会について紹介

白水社『エクスプレスエスペラント語』第1課・第2課にそって、接頭語・接尾語・品詞語尾・動詞変化などのしくみを紹介

まとめ

講習が90分と限られているなかで、『エクスプレスエスペラント語』のような既存教材の流用だと講座の内容と一致せず、エスペラントのやさしさを実感してもらうのは難しいようです。時間枠や対象者にあう教材や方法など、かなり早いうちからの準備が必要。また、語学講座を銘打つと人があつまらないとみるべきかもしれません(直前のポルトガル語講座にもほんの4人しか受講していませんでした)。語学講座くさくならないような、題目の工夫やテーマも必要だと思いました。

(文責:堀田裕彦)

えほんのもりで世界の民族楽器演奏体験会

伊藤俊彦

堀泰雄さんが長年にわたり収集された世界の民族楽器を、えほんのもりに寄贈していただきましたので、6月5日（月）午後5時から、堀さんにお越しいただき、その披露を兼ねて、えほんのもりで演奏体験会を行いました。えほんのもりは、愛知県岩倉市で伊藤俊彦・順子が運営している絵本・児童書を中心とする私設図書館です。2009年、2011年にも堀さんの民族楽器のコンサートを開催しましたので、今回で3回目になります。

開催に先立つ5月31日、中日新聞尾張版（写真左下）に、演奏体験会に関する記事が掲載されました。堀さんがエスペランチストであり、世界エスペラント協会の理事を務めたこと、エスペラントの行事で世界各国を巡る際に民族楽器を収集したこと、エスペラントがきっかけで私たち夫婦と知り合ったことなどが紹介されています。

当日の参加者は子どもやお母さんなど約50名で、堀さんの巧みな話術と子どもたちを巻き込んでの演奏体験に、会場は笑いと興奮の渦に包まれました。そのときの祝祭的雰囲気や参加者の感想が6月7日の中日新聞尾張版の記事（写真右下）で報告されています。ひとつのささやかな催しについて2回も記事にさせていただいて、大いに感謝しています。

演奏会では東日本大震災の被災者への募金も行いました。民族楽器の数は、以前に寄贈していただいたものも含めれば300ほどに及ぶでしょうか。堀さんの志を受け継いで、今後大いにこれらの楽器を活用したいと思います。



今後の地域の行事予定

ワールド・コラボ・フェスタ2017

時 10月14日（土）15日（日） 雨天決行

場所 オアシス21「銀河の広場」

主催 ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会

入場無料

名古屋エスペラントセンターがブース出店し、エスペラントの紹介をします。

マールクシュ・ガーボル氏歓迎会（参加予約受付中）

時 10月30日（月）19時より

場所 ビストロ ドゥ ミツ（イタリア料理・フランス料理）

会費 4000円（コース、飲み放題つき）

いったん名古屋エスペラントセンターに18時ごろに集合し、そろって店に向かいます。場所はセンターから千種駅方向、「錦通車道」交差点の北東角。

予約は、猪飼（090-9191-3339か ikaiyosikazu@tw.drive-net.jp）まで一週間前までです。なお、センターのホームページの掲示板などでも受け付けます。

ガーボル氏は、10月30日（土）から11月1日（水）まで名古屋伏見のホテル「シルク・トゥリー名古屋」に滞在するので、面会も歓迎とのこと。今回の来名の目的は、母校南山大学を訪問して、著書「A NANZANTÓL A NAMSANIG」を寄贈すること。その後第104回日本エスペラント大会にて講演の予定。

第104回日本エスペラント大会（横浜）

11月3日（金）から5日（日）。

センターはブース出店予定。書籍販売や活動紹介。

名古屋エスペラントセンターザメンホフ祭

12月9日（土）センター事務所にて

「私のエスペラント人生」「ゲーム vorto-ludo」「懇親会」など
詳細は次号にて

日誌（6月から9月）

6／9（金）	17時から18時	「センター通信」発送作業
6／9（金）	18時から20時	センター委員会
6／14（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
6／16（金）	17時半から21時半	初級講習会
6／24（土）	16時半から17時半	Rondo Harmonia懇親会
6／27（火）	16時から18時	読書会
7／3（月）	18時から20時	センター委員会
7／5（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
7／7（金）	17時半から21時半	初級講習会
7／8（土）	16時から18時	エスペラント運動セミナー
7／11（火）	16時から18時	読書会
7／14（金）	17時半から21時半	初級講習会
7／19（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
8／8（火）	18時から20時	センター委員会
8／16（水）	16時から18時	読書会
8／18（金）	17時半から21時半	初級講習会
9／8（金）	17時半から19時半	初級講習会
9／13（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
9／19（火）	17時から18時	センター通信発送作業
9／19（火）	18時から20時	センター委員会
9／22（金）	17時半から19時半	初級講習会(予定)
9／26（火）	16時から18時	読書会(予定)

会員近況

稲沢市在住で、センターの運動にも関わってきた後藤正治さんは、最近入退院を繰り返し、現在はひとりで自宅療養中。センターの会員がときどき、様子を見に訪問しています。

竹崎睦子基金

山田義

名古屋市を中心に永年エスپرانت運動に献身された竹崎睦子さんが、2016年の第65回東海エスپرانت大会の前日急逝されました。故人のエスپرانتに対する情熱をよく知るご遺族から、「東海地方のエスپرانت運動のためにお使いください」と遺産の一部が寄贈されたものを、「竹崎睦子基金」として管理・活用することにしました。下記の通り、基金を活用したい団体・個人はお申し出ください。

記

- ❖ 対象：東海地方のエスپرانتの運動に寄与する事業を行う団体および個人
- ❖ 応募要領：事業の時期、目的、内容、予算概要、東海地方のエスپرانت運動に寄与する理由などを付記して管理者に申し出る。
- ❖ 支援決定通知：申し出の受領から1か月以内に、可否および支援金額などを管理者から通知するとともに公表する。
- ❖ 事後の報告義務：事業の終了後3か月以内に事業経緯と内容を報告する（管理者がエスپرانت運動誌などに公表することを妨げないこと）

支援第1号

対象：2017年の第66回東海エスپرانت大会実行委員会（講師への謝礼、参加費、宿泊費を2017年5月26日に金36,950円を支援した）

理由：講師を東海地方以外から招き、大会を盛り上げるとともに、参加費を廉価にして参加しやすくすることにより、東海地方の運動の活性化に寄与

管理者： 黒柳吉隆 salikojp@ybb.ne.jp
後藤好美 yosimi51@mf.ccnw.ne.jp
山田 義 yamadapiano@mac.com

▶編集後記

本号では、ソウルでの第102回世界エスپرانت大会の報告が半分ほどを占めました。大会の参加者数は1000人を超え、アジアでは8回目(東アジアでは6回目)の開催です。できれば、次号でも大会の報告の第二弾を打つことを考えています。原稿を募集します。（猪飼吉計）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。